

## 事業者・団体及び移住者へのインタビュー結果報告（概要）

## 【事業者・団体へのインタビュー】

## 1 趣 旨

鴨川市の強み・資源（医療、自然（農業・漁業含む）、観光、スポーツ）等にかかわる主体を中心に、雇用意向の高い社や高齢者の就労に適した事業内容、CCRC の取り組みと関連の深い事業内容等に関わる社を対象として11月下旬から12月上旬にかけてインタビューを実施し、以下を把握。

- 鴨川版CCRCへの関心、連携にあたっての意見
- 提供可能なサービス内容・役割
- 高齢者の雇用意向について 等

## 2 対 象

- ・医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院
- ・医療法人社団 宏和会 エビハラ病院
- ・学校法人 鉄蕉館 亀田医療大学
- ・城西国際大学観光学部
- ・鴨川市農林業体験交流協会
- ・特定非営利活動法人 大山千枚田保存会
- ・一般社団法人鴨川市観光協会
- ・東急リゾート鴨川営業所
- ・有限会社日南
- ・イオン鴨川店 （計 10 機関）

## 3 事業者・団体のご意見

## ○移住者像

- ・ 鴨川市への移住はリタイア後が現実的である。資産家でない限り、移住後の職が必要となる。
- ・ 鴨川にアクティビティやアミューズメントを用意し、東京の富裕層を呼び込み、消費してもらおうべき。
- ・ 単身高齢者も楽しく生活できる終の棲家といった位置づけで考えたほうがよいのではないか。
- ・ 高齢者の立場から見れば、医療面では心配のない地域と思う。
- ・ 高齢者よりも若い方をターゲットにしたほうがよいのではないか。
- ・ 勝浦・鴨川／伊東・熱海で比較検討する方が多い。都会に出やすいのは魅力。コミュニティ・施設があるところは取引に動きがある。
- ・ 空き家／別荘に住んでもらうのも一案。
- ・ 移住者は、農的な生活で余生を楽しみたい、という希望を持っている場合が多い。
- ・ 自然志向の人でも写真を撮りたい人、農業をやりたい人などの違いがある。

### ○鴨川の資源

- ・ 医療施設があることが鴨川の資源である。
- ・ 実際に人が来るのは、アクティブなことができるようなところ。
- ・ 総合運動施設に整備予定の多目的施設を活用すれば、シニアクラブの拠点になるのではないか。
- ・ 趣味が生かせる場所があれば移住しやすい。
- ・ 南房総エリア全体で考えたほうが良いのではないか。

### ○移住・居住における課題

- ・ 高齢者が移動しやすいような環境づくりが必要。
- ・ “鴨川なら元気な期間が伸びる！”など東京にはない魅力が必要。
- ・ 移住アクティブシニアが健康問題を抱えた際、協力できるネットワークづくりや御用聞きの制度を考える必要がある。

### ○高齢者の雇用や生きがい創出

- ・ アクティブシニアを対象に有償で活動できるようなプラットフォームが必要。
- ・ 知的で文化的な活動をできる場所が必要。
- ・ 活躍は就業だけではない。例えば、学生を下宿させて食事をつくってあげるというも生きがい。
- ・ 医療施設では有資格者の取り込みが必要。
- ・ 販売のノウハウを持った移住者を雇用できると良い。
- ・ 担い手として、地元にいるリタイア層の参加も重要である。

### ○情報発信

- ・ 鴨川市からも移住情報を積極的に発信しなければならない。マスコミの活用方法も検討したほうがよい。
- ・ 家作りや酒造りなどに参加した子供が、親に鴨川のよさを伝え、家族で継続的に農業体験に参加してもらおう、という波及効果を期待。

### ○行政に期待する取組み

- ・ 行政として、外国人研修制度の活用含め、看護師・介護職員養成のためのインフラをつくってほしい。
- ・ 鴨川市全体の魅力を上げるビジョンを出していくべきではないか。例えば、山の尾根を行き来できるようなハイキング道、尾根からみる海を売りにするなど。
- ・ 前原海岸の海辺の魅力づくりで、鴨川のへそをここにつくる必要がある。「上質な日常+常に健康」でブランディングを図ることが必要。

## 【移住者へのインタビュー】

### 1 趣 旨

第2回会議までの意見を踏まえ、鴨川市への移住を促進する上での強み・資源、課題等を把握するため、実際に鴨川市へ移住してこられた方々に対して12月上旬にインタビューを実施し、以下を把握。

- 移住した経緯
- 移住して感じたこと
- 今後の暮らし、移住促進に向けて

### 2 対 象

- ・海辺/マンション居住者 70代（1人） ※リタイア後の移住者
- ・里山/戸建居住者 60代夫婦（2組） ※リタイア後の移住者
- ・若手移住者
  - 30代独身 男女各1名
  - 30代既婚 2組

### ■移住者のご意見

	シニア移住者3組（海辺1、里山2）	若手移住者4組
①鴨川に移住した経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都会暮らしはいやで、空気のキレイなところでのんびりしたいと思っていた。</li> <li>・ 鴨川には通ってきた縁があり、顔見知りも多かった。</li> <li>・ 海(渚)に面し、背後になだらかな山並みのある環境が、鴨川にしか見当たらなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 満員電車で揺られてストレスの多い都会の生活より、自分の好きな土地で生活し、その土地に貢献できる人生を希望して移住を決断。</li> <li>・ 休日にゆっくりサーフィン、自然の中でくつろぎ、移住者コミュニティ等に入れたら良いと思った。</li> <li>・ 母が鴨川出身で、農業体験イベントに参加。農作業以外にも古民家の掃除や草刈りを定期的にやっていた。</li> </ul>
②鴨川市に移住して感じたこと	<p>【良かったところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 潮騒の音が心地よい。</li> <li>・ 病院は、確かに便利である。</li> <li>・ JA 婦人部の料理教室に参加することで知合いが増えた。</li> <li>・ 食料品は生協やネット通販等で購入できるし、そもそも自給自足の生活を送っていると買い物も週1～2回で済んでしまう。</li> </ul>	<p>【良かったところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家賃が安い間に間取りが広い。</li> <li>・ 自然が多く海がきれい。サーフィンに適した波が多い。</li> <li>・ 夏は涼しくて、冬は暖かく、穏やか、空気がきれいで、空が高く、星がきれい。</li> <li>・ 道路がすいていて移住前と比べストレスが減った。</li> <li>・ 子供たちは虫を捕ったり、外で遊ぶことが多くなった。</li> <li>・ 海も里山もどちらもある点が本当に素晴らしい。</li> <li>・ 季節感が感じられる。</li> <li>・ 時間の流れがゆっくり。人の密度が違う。</li> </ul>

	シニア移住者3組（海辺1、里山2）	若手移住者4組
	<p>【不満なところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まわりのコミュニティとの関係には神経をつかった。</li> <li>・ マンションの住民同士の交流はほとんどない。</li> <li>・ 千葉市へ出るのに2時間かかることは不便この上ない。</li> </ul>	<p>【不満なところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通の便が非常に悪い。</li> <li>・ 美味しい店が多くない。</li> <li>・ 映画館がない。ネットカフェがない。</li> <li>・ 物価が意外と高い。</li> <li>・ 若い方がいない。</li> </ul>
	<p>【気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本格的に農業を始めたが、まだまだ収益化には至らない。</li> <li>・ 高い階に住んでいるが、それでも津波が心配。</li> <li>・ 買い物先で高齢者が憩うことのできるスペースがあるとよい。</li> </ul>	<p>【気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思ったより生活に不便がない。コンビニやスーパーも近くにあるため、良くも悪くも不自由がない。</li> </ul>
③今後の暮らし、移住促進に向けて	<p>【今後の暮らしへの展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農作業が繁忙なので、今後はもう少しゆとりある暮らしをしたい。</li> </ul>	<p>【今後の暮らしへの展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事と趣味を両立し、自然を感じながら暮らすライフスタイルを確立したい。</li> <li>・ 古民家を改修して住めるようにしたい。そこで自分の食べるものを自分で作っていく暮らしが夢。</li> </ul>
	<p>【今後の暮らしへの不安】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田舎暮らしにはお金がかかるのが現実。</li> <li>・ 車に乗れなくなったら、バスも少ないため、移動が心配。</li> <li>・ <u>墓の確保をしてほしい。既存の墓地を紹介したりするなどの取組みが必要。</u></li> <li>・ 有害鳥獣による被害が深刻。</li> <li>・ 独居の高齢者も住んでいるため、見守りの体制も必要。</li> </ul>	<p>【今後の暮らしへの不安】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津波の被害が心配。</li> <li>・ 自分自身が高齢になり、車が運転できなくなるという不安はある。</li> <li>・ 移住者の窓口がない。サポート体制がない。移住希望者に情報をもっとわかりやすくしてほしい。</li> </ul>
	<p>【移住等に関する気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帰農者セミナーなどでも情報提供、物件紹介してくれる仕組みがあるとよい。</li> <li>・ 鴨川も意外と里山の上は寒くて風が強いのが予想外だった。</li> <li>・ 住民と移住者が気軽に集える場があるとよい。</li> </ul>	<p>【移住等に関する気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移住者が一番不安なのは、移住先の住民との人間関係。いい意味で移住者を隔離できるような地区をつくり、都会での生活習慣を崩さずに自然を堪能できる環境があると良い。</li> <li>・ シーワールドや亀田病院沿いのようなきれいな道に街全体でできたらよい。</li> <li>・ 意外に羽田空港へのアクセスがいい。旅行好きなアクティブシニアにはいいアピールになるのではないかな。</li> <li>・ 「鴨川空き家」、「鴨川仕事」で検索しても情報が少ない。</li> </ul>

(参考)

移住に関するアンケート結果  
(平成 28 年 12 月 6 日現在の中間集計 鴨川市農水商工課)

1. 実施内容 2016 年棚田オーナー制度利用者に対し、鴨川市中山間地域等活性化協議会の郵便物にアンケート票を同封して実施 (平成 28 年 10 月～)
2. 目的 「農」と「鴨川」に関心が高く、鴨川へ何度も通っているオーナー制度利用者の移住に関する意向と農地取得に関する意向の把握
3. 回答結果 : 回答数 92 件 / アンケート配付 280 件 (回収率 32.85%)

Q 1 あなたの年齢層を教えてください。(n=91)

20代	30代	40代	50代	60代以上
1	7	33	18	32
(1.1%)	(7.7%)	(36.2%)	(19.8%)	(35.2%)

※1件無回答

Q 2 田舎暮らしに関するご意向について、教えてください。(複数回答。n=117)

ア 条件が合えば、田舎暮らしをしてみたい	22 (18.8%)
イ 将来的に考えている	12 (10.3%)
ウ 二地域居住をしてみたい	32 (27.3%)
エ オーナーとして引き続き鴨川を訪れたい	45 (38.5%)
オ その他	6 (5.1%)

・現状では夢でしかないでしょう。多くの方が人口密度の高い市街地での生活を選択しているのは、集った人の数だけ生じる大規模且つ多様な消費を支え得るように整えられた社会基盤の利便性が田舎暮らしで得られるフuzzyな、悪く申し上げれば現実逃避の一つの形式化している発想よりも、より自身や家族のためになるものと捉えているからで、私もそのうちの一人であることを認めざるを得ないからです。

・他市で田舎暮らしをやっています。

・現在、平日東京、週末鴨川での二拠点居住を始めました。もう少し広い家(田・畑つき)が借りられれば、移住も考えたい。

・田植えや草刈り、稲刈りなどの農繁期に2、3日住める作業所(山小屋?)があるとJRやバスで通えるのですが・・・

・現在、鴨川在住

・既に南房総市へ移住、稲作を大山千枚田でオーナーとして行っています。

Q3 農地（田・畑）取得のご意向について、教えてください。（複数回答。n=97）

ア 自分たち家族の食べる分が収穫できる広さを取得したい。	39 (40.2%)
イ 将来的に直売所への出荷も視野に入れた広さ（1,000～2,000 m <sup>2</sup> ）を取得したい。	7 (7.2%)
ウ 本格的な農業経営をする広さ（5,000 m <sup>2</sup> 以上）を取得したい。	1 (1.0%)
エ 取得は考えていない。	40 (41.3%)
オ その他	10 (10.3%)
<p>・取得済</p> <p>・今件も上記と同じく夢でしかありません。実際の日々は仕事に追われるのみで、かろうじて夢のかけらを、その行程の細部迄ご配慮頂いた棚田オーナー制度で体験できるのがやっとなからです。転職して農を生業とするつもりはございません。農協という巨大な化物組織の改革が遅々として進まない事でも証明されている通り、上部組織が農の現場が創り出す夢を喰い物にし続けている現実があるからです。</p> <p>・半分だけでも自給できればうれしいですね。</p> <p>・畑作業も経験してみたい</p> <p>・今後取得するかどうか考えていく</p> <p>・休耕田があれば借りたい</p> <p>・自分のできる範囲で</p> <p>・まだわからない</p> <p>・取得ではなく借りたい</p> <p>・地価が安ければ購入、高ければ借りる方法も選択？</p>	

Q4 鴨川市ふるさと回帰支援センターでは、農的生活への第一歩として、「鴨川いきいき帰農者セミナー」（月2回程度、金曜日開催）を実施しています。「こんな内容だったら参加してみたい」というご意見等ありましたら、教えてください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・二地域居住、移住者の体験談（1日、1週間、1ヶ月、四季のスケジュール、農事日記公開）、不動産物件の写真展示、野菜栽培のための土作り（粘土質→砂地へ）、野生動物被害対策、休日開催</li> <li>・居住地と農地の取得方法</li> <li>・休日（土曜日）開催なら参加しやすい。空き家情報など発信望む。</li> <li>・金曜日とのことで参加できませんが、有機栽培講座は良いと考えます。</li> <li>・匿名であることを楯にするつもりはございませんが、部外者＝まったくのシロウトでありながら、あえて今持ち合わせている知識（感覚）で申し上げさせて頂くなら、貴鴨川市ふるさと回帰支援センターが指し示すべきは、いかに上部組織の役割を現状の各種基金や生保・証券会社内での資産運用部門と同様のみとする縮小体制へと移行させ得るか、そしてその結果として農の現場が将来的にどれだけの利益を上げ得るようになるのか、数次に亘ることとなるであろうそのビジョンを明確にすることだと思えます。あらゆる組織は進化論と同じく、その変化に対応出来なければ消滅あるのみです。生半可な取り</li> </ul>
--

組みだけでは益々ジリ貧に陥るだけでしょう。申し訳ございません。感じていることをそのまま記載させて頂きました。

- ・平日に農作物の栽培方法を教えていただける体験学習の教室（月2回程度）
- ・堆肥作り。冬物野菜、春物野菜の寒さ対策
- ・休日開催があれば！
- ・休日、田んぼ作業がない時期は参加しやすいです。
- ・無農薬のとりくみについて
- ・特にありません
- ・半農半Xという生き方は老人でも参加できる活動がありそうです。共同住宅とか共同作業とか・・・
- ・休日開催なら参加しやすい
- ・果樹の栽培についての講習等あれば受講してみたい。将来キウイや温暖化により千葉でも栽培可能になったドラゴンフルーツ等トロピカルフルーツに関心があります。
- ・週末に開催して頂ければ、参加してみたいです
- ・借地、借家の紹介
- ・休日開催なら参加しやすい。
- ・自治体存続のため、人口減少のなか、このような積極策は大変大事と思います。
- ・休日開催でないと参加が難しい。
- ・休日開催と有機栽培
- ・平日は難しいので、休日開催なら有難い。実際の移住体験者の話や生活するに当たっての予算や生活設計の如何、移住者に対する支援や受入れ体制など・・・
- ・休日開催ならよいです。
- ・休日希望です
- ・年令もあり、現在は農業を本格的に行うまでは考えておりません。
- ・日曜日で都合が合えば参加可能
- ・棚田オーナー制度のような小規模畑地の占有しようが出来れば参加してみたいと考えています。
- ・実施内容によっては、日程を合わせて出席を考えてみたい
- ・休日なら参加したいです。また、短期（夏の1か月など）で地元のアパートがレンタルできるならプチ移住したいです。
- ・週末でなければ参加できませんが、とても興味があります。
- ・参加は難しいです。残念です。
- ・ぼかし肥料の作り方、休日（土日）開催を希望、無理のない程度のイノシシ等の動物対策
- ・現在は東京で居住、勤務であり、金曜日開催では無理です。休日なら参加検討できます。
- ・休日開催を希望します。
- ・休日ならば参加してみたい。素人でも参加しても分かる簡単な内容、説明頂ければ良いと思っています。
- ・子供がまだ小学生ですので参加は難しいと思います。